

### 3 学校支援のためのコーディネーターに関する調査（コーディネーター用） 問8 記述内容一覧

- 地域協議会の委員と学校支援ボランティアの役割分担が不十分。また、学校からコーディネーターでなく直接、地域協議会委員へ連絡がいくことがあり、学校支援ボランティアへの依頼がスムーズにいかない。ボランティアの要請にコーディネーターが必要なのが戸惑う。
- 学校支援ボランティアの確保については、年度によってばらつきがあるように思う。理由として、学校支援ボランティアのような活動をしている人がいるということが保護者、地域の方に浸透していないからではないか。みなさんの理解が進み、毎年、自ら手を挙げてくださる方が増えることを願う。
- 地元の出身者でない私にとって、地域の方に何かをお願いするのはなかなか難しいことだった。地域の方は、結局学校から直接お願いいただいて動いてくださるのが常で、コーディネーターとしての達成感は無いまま閉校となる。
- コーディネーターは、ボランティアとしての立場であり、上下関係のないやり方がよい。ボランティアの協力人数を増やすのが難しい。学校時間に合わせるができないため。
- ボランティアの確保について。中学校では働き始める保護者も多く、企画してもなかなか集まらないのが課題。近隣校の情報交換を軸に、ボランティアを共有できるようなシステムや特定エリアで活動するボランティアグループのようなものができればよい。
- 学校側は、学校と地域をよく知り、公的な立場で教育活動を支援できる資質をもつ人材を望んでいると思う。地区では、仕事をしている方が多く、コーディネーターもボランティアも確保が難しい状況であるが、たとえ1人でも見つければ学校支援は推進できる。できれば、非常勤のような扱いができるとういと思う。
- 学校によって、コーディネーターの考え方、扱い方が異なることが問題だと思う。ボランティアへの依頼が大変で、一番のネックになっている。
- 長年担当し、定着しているボランティアが高齢となり、依頼が無理になった場合、バトンタッチできる人材を探すのは難しい。多少の技術を要するもの場合は特にそうである。（学校支援ボランティアの活動として「魚釣り」を実施している。川で、実体験で継続活動してきたもので、代表の方には3年前から後継者探しを依頼してきた。今回は、代表ができないということで、緊急だったが、別の方にお話ししたところ実施できた。）
- PTA役員をしていた当時のPTA会員や、その家族の方々等、ボランティアの確保は何とかしている。ただ、器用だから、人柄がよいからだけではお願ひできず、学校内の出来事や児童の行動等を守秘できる方をお願いしている。若い方は仕事をしている人が多く、ボランティア依頼は難しい。地域の活動団体の仲間たちとお互いに協力し合っている。
- 私の地区では公民館が主体となり、昔から地域ぐるみの活動が他方面にわたって行われ、子ども教室等を長年にわたって実施している。地域の文化や歴史を知る人が高齢になり、いなくなった。
- コーディネーターの後継者を見つけるのが難しい。PTA本部役員のように強制的に抽選でとするのも難しく、今後続けていくことができるのかかわからない。声をかけては限界がある。学校、地域、保護者に活動内容が浸透していないことも原因の一つである。
- コーディネーターの後任問題。バトンを渡す準備はできているのに渡す相手がいない。ボランティアならいいけど「コーディネーターはお断わり」。深刻である。長く関わるコーディネーターの後任は特に荷が重いらしい。要するに情報通の口うるさいおばさんは安心感もあるが「なんか～偉そう」で敷居が高く、おまけに「役」につくと大変というイメージ。現実的な理由としては報酬がない、つまりタダ働きよりはパート、当然である。学校支援が継続的に行われるためには任期などを設けて次の人にうまく繋げていくことが必須。理想は、PTA役員などからの流れができてくれること。保護者(PTA)に対して学校支援活動やふれあい学習、コーディネーターの役割などへの理解と、地域連携への意識向上を図る取組を実施してほしい。
- コーディネーターの養成に直結するような研修の企画を望む。
- 地域協議会が発足してからもうすぐ10年になるうか。各小中学校のコーディネーターの活動もマンネリ化して、新鮮味に欠けるように思う。（各校の活動が充実していないという訳ではない。地道な活動の毎日の積み重ねこそが学校支援に必要なことだとは思いますが）ボランティアの確保の難しさや次期コーディネーターや地域協議会会長の引継ぎ等を考える時期にきていると思い、悩んでいる。
- コーディネーターに魅力がないと思う。だからコーディネーターどころかボランティアの確保すら難しい時代になっていると思う。教員によっては、こちらに丸投げの人もいて、これでは次に私が！という人は現れない。
- 後任の方が困らない体制づくり。
- コーディネーターは、普通の主婦や一般の保護者である。県教育委員会主催の講習会のように、責任や能力を求められると重荷に感じる。ボランティア・コーディネーターは気軽に誰もが参加できるものであるべきと考える。また、学校により子ども・教師・保護者の求める活動も違うと思う。その学校なりの活動を始めていると思うので、セミナーなど画一的な指導ではなく、学校ごとの活動を支援してもらえれば幸いである。コーディネーターも担当教諭も、忙しい中、時間をやりくりして学校支援に取り組んでいるので、セミナーの回数の見直しや、休日の原稿依頼自粛など、負担を減らす対応を検討してもらえればとてもありがたい。
- 報償等、他市町のボランティアとの違いがあり、やる気が奪われた。先生たちと子どもたちのより良き学校生活が送れるようにサポートするつもりという一念だが、自分にとってのメリットが感じられず、ボランティアって一体何なのかと疑問に思う。また、このようなアンケートについて、FAXで送るというやり方はお金がかかる。報告書作成のためのアンケートに参加するのがコーディネーターの仕事ではないので、やり方を検討してほしい。
- コーディネーターの立ち位置がまだ不明確で、職域をはっきりさせてほしいところがある。正直、仕事をしながらの活動であるため、相方の負担が大きく、心苦しいが、ボランティアである以上、これ以上の業務は無理であるため、考え方の板挟みがある。また、学校によってコーディネーターの活動、役割に差があり、費用弁償の額に虚しくなる。（一条コーディネーターは週1で本格的な活動をしているので、ほぼ再任といっている程。メインで活動されているコーディネーターがもっと評価されることを望む。）
- 個人的に多忙なため、コーディネーターを中心に活動するのが難しく、これから積極的に活動するには負担を感じる。後継者もしくは仲間の発掘をお願いしたい。
- 1年間のボランティア活動に使える費用が明瞭でなく、その都度学校側へ費用を請求している。参加してくれたボランティアにお茶などの用意が可能なのかも不明瞭だし、各学校での費用の配分など、どうなっているのか。

- 同じ市内でも、学校によってコーディネーターの負担や存在感、依存度が大きく異なる。コーディネーターは、無償ボランティアではなく、場合によっては、有償であることも必要だと思う。コーディネーターは、学校の相談役、クッション材だと思っているので、コミュニケーションをとって上手に利用してほしい。
- 現在、活動費が支給されて活動しているが、多くの活動でも、ほんの少しの活動でも同額なのである、調整も必要と思われる。
- 各中学校区に最低 1 人のコーディネーターが必要である。しかも、コーディネーターはボランティアではなく、お給料をもらうべきである。有償で働くコーディネーターでなければ、十分に機能しない。
- コーディネーターとして地域すべてに精通していないので、学校支援地域本部委員(各自治会 1 人)とより密な情報交換を心がけると同時に、コーディネーターは複数配置により、学校の地域連携教員の負担軽減にも配慮できるようにする。
- コーディネーターは、できるだけ長く継続していくことがよい。本校は、複数配置になっているが、今後も複数配置をお願いしたい。
- 現在の活動を続けていければよいと思う。配置も、学校が統合する前の旧エリアごとに 1 名ずついるのでよいと思う。
- 現在 2 名で活動しているが、仕事・家庭の事情で研修や活動に参加できないことが多くなった。あと 2 名くらい増やして分担したいが、なかなか見つからない。
- 世代ごとにコーディネーターがいると、ボランティアの活動が広がると思う。
- コーディネーターもボランティアなので、複数配置をして負担を少なくし、活動が長くそして広く行われるようにしたい。また、活動費の確保が難しい場合は、行政にも考えてもらいたい。
- 現在 3 名のコーディネーターがおり、分野ごとにボランティアを確保したり、連絡したりできるのでよいと思う。後任の方へ負担なく引継ぎができる仕組みが作れるとよいと思う。
- 現在 1 人でコーディネーターを受けているが、将来のことも考えて、2〜3 名のコーディネーターで活動していく体制の構築が課題である。
- 学校や先生が支援を要望する項目ごとにコーディネーターを配置する。また、コーディネーターには、その部門の専門性を意識できるようなスキルアップのための研修会等があるとよい。
- 次世代のコーディネーターの育成(活動の連続性維持のために)。現在の学校ではコーディネーターが 4 名配置されているので、持続的な活動が可能になっている。複数配置のメリットである。
- コーディネーターが複数人いると、補いながら活動できる。
- 現在、1 人でコーディネーターしているので、複数名で活動できれば、よりよい活動になるのではないかなと思う。
- 先生たちの縦横のつながりがうまくいっていないと思うことがある。毎年同じ活動をしているのだから、昨年実際に活動した先生に話を聞いたり、引継ぎをしっかりとすれば、スムーズに活動できるのではないかなと思う。また、同じ教科でも別々の先生が担当するときは話し合って同じように活動してもらえると、それもスムーズな活動につながると思う。
- 現在、地域内のコーディネーターの活動を公民館の社会教育指導員にPRしてもらっている。しかし、担当が替わると多少コミュニケーションがとりにくくなることから、自分から発信していけるようにしたいと考えている。
- できる限り学校の要望に添えるように活動しているつもりであるが、どこまでやるのか(やれるか)について答えがないようなものなので難しいところである。担当の先生が替わると、一からやり直しということもあり、少々大変なこともある。
- 今年初めてコーディネーターの活動をしたが、もっとたくさんのコーディネーターとの交流があれば、もっと幅のある活動ができると思う。
- 市の小中では約 30 名のボランティアコーディネーターがいて、その中の約 20 名が組織を立ち上げ、毎月会員が集って、情報交換等の有意義な活動を行っている。
- 自分の特色を生かして活動できることが第一と考えている。コーディネーターになる前から、地元の小中学校に協力すべきだと考えていた。
- コーディネーターが学校職員でない方が活動の幅が広がると考えられるが、地域連携教員とコーディネーターが職員同士という組織でも、連携が深まる。学校の実態に応じて、より適する配置をするということで柔軟な対応ができるとよいかなと思う。
- 学校は児童生徒と教職員、保護者が力を合わせて創意工夫を重ねて、特色ある教育活動を展開している。外部から支援の手を出すにあたっては、このことを大切に、さらに教頭先生などが余計な負担を負わないよう、十分に考慮していく必要がある。
- 本来PTA役員だが、充て職も多く、このコーディネーターもその中の一つで、初めは戸惑った。しかし、学校に相談すると来年度についてもきちんと対応の意思を示してくれたので安心した。また、始まってみるとコーディネーターの活動はいろいろな勉強になっている。
- 学区内全体(4 町会)で学校を支援できるコーディネーター配置が望ましい。また地域全体で学校関係者と協働できる現状の体制を生かし、稼働させてくれれば。
- 地域連携教員とコーディネーターで協力体制を築けると、また違った広がりができる気がする。現状は、校長先生に直接お願いし、学校全体で動いてくれている。
- コーディネーターは不慣れでよくわからないが、ボランティアは学校側の足りない部分を補うものであって、先生たちを悩ませたり、余計な手間を取らせたりすることのないよう心がけて、今までは学校より要望のあったものにだけ対応してきた。さらに、新しいボランティアをコーディネーターの方がよいとなると、何をどこまでやるのかがわからない。いろいろな事例が知りたい。
- まだ活動を十分と言えるほど行っていないので、今後の活動の中で多くの関心(問題意識)をもって臨んでいきたい。
- OPTA事務局として働いており、先生と会う機会がある。
- 校内用の身分証(ネームホルダー)を発行してもらえると、学校に行ったときに先生や保護者に身分を明示できる。
- コーディネーターは、地域にお住まいで、学校を退職された方をお願いできるとよいと思う。学校のことも、地域のことも、授業についても把握されていて、人脈もあるので。
- 近隣の小・中学校のボランティア人材を共有し、必要な人材を容易に派遣できるような構造を作ることが必要だと考える。

- 市では、いわゆる「地域コーディネーター」は配置されておらず、市（公民館）の社会教育指導員（非常勤）が、各学校の家庭教育学級・PTA事業の企画運営の支援を行っている。
- コーディネーターが必要な学校とあまり必要でない学校があると思う。学校の実情に応じて、必要な活動を考えながら行うことが大切だと思う。
- コーディネーターがいなくても、開かれた学校、愛される学校、誇れる学校として、地域と一体となった環境で、支援ボランティアが来てくれるようになればよい。
- 学校の負担にならないように、子どもたちのためになる活動ができるとよいと思う。
- 社会教育指導員として生涯学習課に在籍している。指導員として地域の方と繋がっているのも、コーディネーターの仕事に生かしていると思う。
- 一つの学校にコーディネーターが複数いる場合、コーディネーター同士の学校に対する意識や気持ちが揃っていないと支援する時になかなかスムーズに事が進まず、学校に負担になってしまう恐れがある。学校もコーディネーターを選出する時は頼んだら引き受けてくれる人なら誰でもではなく、ちゃんとコーディネーターの役割を理解している人を選んでほしい。
- あまり規則でしばられすぎると動きづらくなるので、ある程度自由度がきくようにしておいてほしい。
- 学校側の積極的なボランティアの活用。コーディネーターとボランティア活動の地域への紹介、発信。地域の方々のスキルの把握が必要。
- 全体にコーディネーターが配置できるとよいと思う。
- 日頃から、たくさんの方々为学校のためにいろいろと協力してくれている。また、その方たちを対象にした学校主催の「感謝の集い」というイベントがあり、本当に助かっている。
- 現在の活動は、環境美化（労力）に徹しているのも、ちょっと物足りない感じもする。
- 学校によると思う。小規模と大規模校では違うと思う。
- 地域の人材についてよく知っていて、コーディネーターする際に適切な人選ができる方が必要だと思う。
- よりよい活動のためには、新しいボランティアの発掘も必要であるため、地域の情報交換に努めたいと思う。
- 活動は学校によってさまざまだし、要求もいろいろだと思う。コーディネーターとして、学校から依頼されたことはすぐやるように心がけている。先生が学校運営をするうえで、邪魔にならず、かといっていてもいなくても同じにならないよう努力しているつもり。もっとも必要なことは、常にコミュニケーションをとることだと思う。
- コーディネーターの活動は地味ではありますが、学校と地域とをつなぐパイプ役になれるように少しずつ努力を重ね、お互いに何を必要としているかなどを理解し合えることが必要である。
- 栃木市内の小・中学校の様子をうかがうと、学校によって地域・外部ボランティアの受入れや活動展開が大きく違っているように思える。各学校の実情があり仕方ない面もあるだろうが、学校運営をもう少しオープン、積極的にした方がよい学校もあるように思う。また、不登校の生徒へのアプローチとしてスクールカウンセラーに各家庭への働きかけをしていただければとも思う。コーディネーターは、できるだけ学校行事に参加・見学などで学校の実情を知るべきと思う。
- とても楽しく活動させてもらっている。児童生徒とのふれあいは元気のもとである。
- 学校支援ボランティアに関することやコーディネーターに関することについて、学校単位で詳しく話をしてもらえる専任の方がいるとよいと思う。地域性がいろいろあり、一概にコーディネーターだけでは立ちいかない場合があるから。成功しているコーディネーターの話ではなく、苦労している方の話が聞きたい。
- 自分の生涯学習の実践の場として活動している。毎年のコーディネーターの記録を積み上げていくと、それが人材バンクになっていくし、同様の事業・行事の際にはコーディネーターを必要としなくても実施が可能となることもある。コーディネーターの活動は「縁の下力持ち」的活動で、何でもかんでもコーディネーターじゃなく、必要に応じて学校教育の推進のため、児童・生徒の成長のためになればよいと思っている。
- 学校の要望にできる限り協力できるようにと思っている。
- コーディネーターの活動事例等、地区や学校単位で持っている情報を共有できるシステムがあるとよいと思う。
- 自宅から徒歩 1 分。いつでも相談に行ける。中学校は 4 地区の学校が 1 つになったため、代表者が 4 人おり、今年度から代表者として担当することとなった。特殊な地域の学校である。
- 地域と学校の連携はますます重要になると思う。
- 学校と地域にどう関わってきたかで、アプローチの方法も変わると思うので、お互いに活動しやすいスタイルを模索すればよいのではないだろうか。